

2023年2月17日

農林中央金庫

アグリビジネス投資育成株式会社を通じた有機米デザイン株式会社への出資について

～自動抑草ロボットの普及や有機米流通構築による有機米市場拡大にむけた取組み支援～



農林中央金庫（代表理事専任：奥和登、以下「当金庫」）はグループ会社のアグリビジネス投資育成株式会社（取締役代表執行役：松本恭幸、以下「アグリ社」）を通じ、このたび有機米デザイン株式会社（代表取締役：山中大介、以下「有機米デザイン」）に対して出資いたしましたのでお知らせいたします。有機米デザインは、「テクノロジーでお米本来の味と力を」というテーマに、「自動抑草ロボット（通称：アイガモロボ）の開発」、「有機米の生産支援および流通・販売」という2つの事業により、有機農業の市場成長に貢献し持続可能な日本農業の実現を目指している企業です。

当金庫は、自らの存在意義（パーパス）を「持てるすべてを「いのち」に向けて。ステークホルダーのみならずともに、農林水産業をはぐくみ、豊かな食とくらしの未来をつくり、持続可能な地球環境に貢献していきます」と定め、融資や出資などを通じ、農林水産業の未来を担う新技術の開発支援にも取り組んでおります。有機米デザインが取り組む、有機米農業の労働力軽減・普及の取組みは、日本の農業が抱える生産性向上・環境負荷低減などの課題解決に貢献するものであり、当金庫もその取組意義に共感いたしました。当金庫は有機米デザインの研究開発活動・生産体制構築を資本提供によって支援することが最適と考え、出資機能をもつグループ会社のアグリ社を紹介し、有機米デザインへの出資が実現いたしました。

有機米栽培による単位面積当たり収入は、慣行栽培と比較すると高いものの、除草作業を中心とする労働負荷が大きく、有機米栽培拡大にあたっての大きなボトルネックとなっております。また、有機米にかかる栽培体系が確立されておらず生産量が少ないため安定供給が難しく、結果として有機米の流通が構築されていない状況となっております。有機米デザインの事業は、有機米にかかる上記2つの課題解決に向けて取り組むものです。

有機米デザインでは、今回調達した資金を「アイガモロボの量産化へ向けた生産体制構築と品質向上のための研究開発」、「アイガモロボを活用した有機米の産地形成と販路拡大の強化」などにあてる予定です。特に、アイガモロボは水田を自動航行し水中を攪拌しながら泥を巻き上げることで光を遮り、雑草が生えにくい状態を維持するため、有機米栽培のボトルネックである除草作業が大幅に軽減される効果が期待されています。有機米デザインは、これらを通じて、有機米の普及・拡大に向

けた取組みを一層加速させるとともに、国が掲げる「2050 年までに（耕地面積に占める）有機農業の取組面積の割合を 25%（100 万 ha）に拡大」という目標の達成に貢献していく方針です。

引き続き、当金庫は「農林水産業と食と地域の暮らしを支えるリーディングバンク」として持続可能な農林水産業の実現に貢献してまいります。

水に浮かべる「自動“抑草”ロボット」  **アイガモロボ[®]**



有機米デザインの概要

商号	有機米デザイン株式会社
代表者	山中 大介
所在地	東京都小金井市中町 2 丁目 24 番 16 号 農工大・多摩小金井ベンチャーポート 101
設立年月日	2019 年 11 月
資本金等	6 億 8,596 万円
事業内容	アイガモロボの開発、有機栽培技術の開発、有機米の流通

【本件に関するお問い合わせ先】

農林中央金庫 企画管理部 広報財務 IR 班 宮澤・水元 TEL:03-6362-7172